

モナシュ大学留学

理学部数理学科3年

岡田優士

私は大学の夏休みを利用して、1カ月余りメルボルン（オーストラリア）のモナシュ大学へ留学しました。これは名大にある英語研修プログラムです。もともと私は海外に興味がありましたが、英語に自信がなくあまり積極的ではありませんでした。そうこうしているうちに2年生が終わってしまいましたが、その春休み、アメリカに留学している友人が名古屋に帰ってきたので一緒に食事をしました。そこで彼女の充実した日々話を聞き、また彼女の成長ぶりを感じ、強い憧れを抱きました。そこから留学を本気で考えるようになり英語の勉強を始めましたが、あまり手ごたえを感じられず時間だけが過ぎていました。そこでとりあえず英語だけの世界に身を置いてみようと考えて、また海外生活の経験も乏しいのでお試し留学と考えてこのプログラムに参加することを決意しました。

1か月という短い期間でしたので特別な準備はしていませんが、一緒にプログラムに参加する仲間たちと話し合い、出発前に準備すべきものの情報を共有し合いました。そしてわからないことは海外留学室に質問をして疑問を解消したので、特に不安なく出発を迎えることができました。

メルボルンでの1カ月はあっという間に過ぎてしまいましたが、振り返ってみるととても充実していたと思います。もちろんいい思い出だけではありませんが、それをかき消すぐらいのすばらしい経験を得ることができました。しかし、やはり日本とは違い海外では不自由なことも多いです。誰も助けてはくれません。実際、私のホストファミリーは81歳のおばあさんの一人暮らしでしたが、アクティブな方だったのであまり家におらず、食事も作り置きでいつもひとりで食事をしていました。また、学校のクラスメートも多くが日本人で自分と同じくらいの英語力だったので、英語を勉強するにあたりとてもいい環境とはいえませんでした。このままではこの留学が無駄に終わってしまうと思い、現地に住んでいる人と友達になろうと考えました。最初は彼らの輪に入るのにためらいましたが、あとがなかったので勇気を出して声をかけてみました。そこが今回の留学のターニングポイントであったと思います。結局、現地の友達はほとんどアジアか



らの留学生や労働者でしたが、とても満足しています。長期留学や海外生活する日本人は他のアジア諸国と比べてかなり少ないので、彼らにとっても日本人は貴重な存在ですし、あらゆる面で彼らは日本や日本人をリスペクトし、興味を抱いていると感じました。たくさんのことを流暢な英語で訊ねてくれたので、英語を話す機会に恵まれるようになりました。また彼らとサッカーをしたり、ナイトクラブに行ったり、cityに遊びに行ったりとたくさん時間を英語漬けで過ごせるようになりました。特に最後の数日はもう日本に帰ってしまうからと、いろいろなグループに誘われ1日2,3回食事会に参加していました。メルボルンでできた友達は私の大きな宝物です。帰国した今でも Facebook や Skype でコンタクトをとっています。

残念ながら白人は日本を含めアジアにそれほど関心がないようで、あまり友達はできませんでしたが、英語はネイティブと話すためのものではなく、世界各国のあらゆる人と意思疎通するための言葉であると気付きました。ネイティブではないので下手でも問題ないと思います。実際、1カ月間で英語力が伸びたかどうかは不明ですが、コミュニケーション能力は格段に成長しました。そして何より英語に対する苦手意識が消え、英語を使うことに楽しさや喜びを感じるようになりました。帰国後もキャンパス内や留学生センターにいる外国人に声をかけられるようになり、名古屋に住んでいても英語を使う環境を少しずつ見つけつつあります。今私は長期留学を目指し、英語の勉強を続けています。

海外で生活することは簡単なものではありませんが、自分を見つめ直し自分を成長させられる絶好のチャンスです。少しでも留学に興味があれば行くべきだと思います。金銭面や英語力を理由に諦めてしまう人も多いですが、探せばいくらでも方法はあります。もし長期が不安であれば、短期でもいいので一度行って見て、そこから考えてみるのもいいと思います。そして何より積極性が大切だと思います。まず第一歩として留学生センターに足を運んでみてはいかがでしょうか。

